

水泳部エースの彼女が 先輩DQNにNTRれた話

●体験版●

これは体験版です。
製品版の1シーンのみをお楽しみいただけます。

またバリエーションは4パターンのうち1つのみ
画像サイズは3パターンのうち1つのみ
の収録となっております。

※画像は製品版より劣化して収録しております。
ご了承ください。

本作品はフィクションです。

登場する人物名、団体名、地名、設定等は
すべて架空のものであり。実在するものとは
一切関係ありません。

「あつ、夏凜！おはよう」

「あ…うん。おはよう」

「…？夏凜、もしかして疲れてる？
昨日は遅くまで特別練習だったんでしょ？」



「え？ううん！大丈夫だよ！
ちよつとだけ疲れてるのかな？あはは…
でも平気！ボクは元気だよ！」

（良太には気づかれたくない！
良太にバレないようにしないと…）

おんね...

「そうなんだ。でも無理しちゃだめだよ？
体を壊しちゃったらいけないしね」

「ん…、そうだね、無理しないようにするね。
ありがとう、良太」

「何かあったら言って？
夏凜のためだったら
僕なんでも…」



「よう、お二人さん。おう夏凜、昨日はよく眠れたか？俺は全身筋肉痛だワ」

「あつ、相羽さん」

「ちょっと先輩…やめて、良太の前で」

あつ
ん
ん



「悪いな、ちよつと夏凜借りリンゼ。
レギュラーは特別な朝練があるんでな？」

「う、うん…あの、ボクちよつと行ってくるよ。
また教室でね」

あ、うん…ね♡

「あ、うん。がんばってね夏凜」



「そんなの…嫌です。
ボク、絶対にやりませんから」

「オイオイ…こつちには昨日の写真もあるんだぜ。
さっきのカレシに見られてもいいのか？」

そう脅されては否も応もない。
夏凜は言うことを聞かざるを得ない。

「ほら、やり方くらい知ってるだろ？
口の中でしゃぶんだよ。細けえ事は教えてやるからよ」



「あむっ……んんっ……じゅっ、っ、じゅぶっ」

「そうそう、いいぜ……初めてのフェアラにしちや上出来だ」

「……んんんん、んんんん……」

ズル
ズル

んんんん

んんんんんんんんんん

ズル
ズル
ズル

ズル
ズル

ズル
ズル

ズル
ズル
ズル
ズル



「大切に扱えよ？こいつが夏凜を女にしてくれた
オ●ンポ様だからな？」



カズキに言われた通り、黙々と口を動かさず夏凜。
小さな頭が揺れるたびに朝の校舎裏に粘着音が響いた。

「ヨシッ、時間もねえし出すぞ！
ちゃんと全部口で受け止めるよ？」

「んっ、ふっ、ふうっ、じゅっ、じゅっ、
じゅっ、じゅっ、じゅっ、じゅっ、

「くっ、出るっ…クチ、すぼめて全部吸えっ！」

「んっ、んっ、んっ、んっ、んっ、んっ、



ドビュルルッ！ドビュッ、ドビュルルルッ！
口内に、朝一の新鮮な精液が大量に注がれていく。
夏凜は頬をすぼめて吸い出していった。

ドビュッ

ドビュッ

ドビュッ

ドビュッ

ドビュッ

ドビュッ

ドビュッ

ドビュッ

「くっっ…夏凜、出された精液は全部飲めよ？」

「くっっくっくっくっくっくっくっ」

夏凜の細い喉が、精液を嚥下するたびに脈動する。
その様子を眺めカズキはご機嫌の様子だった。
しかしその量は到底飲み切れるものではない。

夏凜は限界とともに肉棒を吐き出してしまふ。
喉から飛び出した肉棒が、
夏凜の頭に精液を撒き散らす。

「んっ…うえっ…げほっ！げほっ！」



「おい、吐くんじゃねえよ。しょうがねえなあ…
次からは今言った事忘れんなよ？」

そう言いつつ精液塗れになった夏凜の様子は
カズキを喜ばせてしまう。



（ああ…良太のじゃない精液、
飲んじゃったよう…
もうお口まで汚されちゃった）

飲んじゃった…

びしょびしょ

「ふう…朝からたっぷり出すと疲労感が心地いいわ」

夏凜が大人しく命令に従ったことで、カズキは満足そうだった。



「本当はもう少し嫌がるかと思ってたんだぜ？
こんなところで朝からち●ポ啜えて、美味そうに
精液ゴックンしてよ、滅茶エロかったぜ夏凜」

「ボク、そんなんじゃないから…先輩がやれって、
やらないと写真ばら撒くって脅すから…」
「へえ？本当にそれだけでここまでやれんの？」
「そ、それだけです…当たり前じゃないか」

この悪魔！
絶対に許さないから！

「へへっ、まあいいけどさ」
「まだまだ、気持ちいいこと教えてやるからよ。
たっぷり可愛がってやんぜ？」
もうお前は俺の女なんだからな…」



放課後……。昨日と同じく特別練習を課せられた夏凜は、部室に一人で戻って来た。そこにカズキがやってくる。

「おおーっす。チ●ポ早くしゃぶってくれよ。朝のおしゃぶりが忘れられなくてヨ？」

「……さっさと出してください。早く終わらせて帰りたいんで」

「ちえ、つれねえなあ。傷つくぜ」



カズキは早速肉棒を取り出すと夏凜の口に突き付けた。
夏凜が嫌々口を開いたところで虚を突くように
カズキは肉棒を一気に押し込んだ。

「んんっ!? ふうっ、ううんっ!」

「朝のフェラは口と舌だけだったよな!
今度は喉まで使うフェラを教えてやるぜ!
んっ、ぐっ……ぶぐっ……ぶぐぐぐっ!」



「うおっ、すげえ…お前本当に初めてか？
こんな気持ちいいのオナホでも
そうそうないぜ」

「んっ…ふぐっ…ぐっ、
んぐっ…んぐっ」

感嘆の声を上げるカズキにも
夏凜は答える余裕はない。
ただ喉を締め付け、呼吸の苦しさに
耐えることに集中している。

「よし、出すぞ…おおっー！」



カズキは夏凜の頭を下腹に押し付けた。
肉棒が根元まで夏凜の口に
滑り込んだ瞬間、射精が始まった。

ドビュルルツ、ブビュルルツ、ドビュルルルツ！
「んん！？んぐぐっ！？」



「んっ、んっ、んっ……んっ、んっ、んっ、んっ、んっ、んっ」

夏凜は食道で起きた射精に戸惑うが、
何とかそのまま放出される精液を
胃の中に流し込んでいく。

ここで逆流が起きれば
悲惨なことになるだろう。

「んっ、んっ、んっ、んっ、んっ……んっ」



射精が終わり、ようやく肉棒が喉から引き抜かれる。

「んっ…んっ」



夏凜は食道に残った精液を咳払いで口まで戻し、飲み込み直す。精液の味や匂いは気持ち悪かったが、吐き出して床を汚すのも嫌だったので仕方なかった。

と、その時だった。

「おい、こっち来い。誰か来た。シャワー入れ」

「え？えええ！？」

ア
ン
ン

お
お
お
えええ！？

ア
ン
ン



水泳部エースの彼女が 先輩DQNにNTRれた話

●体験版●

体験版は以上になります。
この続きは是非製品版にて
お楽しみください。
製品版はお得な特典付き



総容量1.3GB!

高画質 長辺1600pxサイズ 基13枚 本編152枚

総CG数870枚以上!

- ・【期間限定】衣装無し版 Ver 収録!
- ・【期間限定】同人誌版 Ver 収録!
- ・ブラウザノベルゲームアクセス可能!
 - ・『イラストのみ』Ver
 - ・『効果文字&吹き出し付』Ver
 - ・『イラストのみ+ストーリー付』Ver
 - ・『効果文字&吹き出し&ストーリー付』Ver

全バージョンのPDF版も収録